私の目指す弁理士像

No. 78

会員　松田　初夏子

この度本原稿の依頼を頂いたとき，大変驚いて戸惑ってしまいました。そのときまで自分のめざす将来の弁理士像について考えたことが無かったからです。また，弁理士試験合格までの間，私は多くの受験生の方々のように特許事務所に就職して技術者として働いた経験がありませんでした。強いていえば派遣社員として弁理士事務所で3ヵ月ほど事務をした程度です。そのため，具体的に弁理士がどのような仕事をしているのかをあまり知りません。したがって，将来の弁理士像について考えようとしても具体的なビジョンがなかなか出てきません。そこで，弁理士業界の外側から客観的に思い描いていた自分なりの自分の将来像について，弁理士となった今の自分の視点を取り入れつつ書かせていただこうと思います。

１．他の業界との関わりを持っていきたい

弁理士というと事務所内でのデスクワークが中心で，周りを弁理士の仲間に囲まれた，とても狭い世界であるというイメージがあります。私はその弁理士の世界で一生弁理士として仕事をしていくことになります(もちろん企業内で働いたりするなど，環境を変えていくことは考えられますが)。イメージだけなのでなんともいえませんが，狭い世界だけでずっと過ごしていくのはちょっと寂しい気がしていました。

私の大学時代の友人に公認会計士がいます。最近，彼は大学の法人化のプロジェクトに参画しています。そのプロジェクトの一環として，大学教授などの創作した知的財産などについての帰属・報酬・研究費などをどのように取り扱っていくかに関して弁理士等とともに仕事をしているということを聞きました。私には会計士と大学・知的財産という結びつきがとても意外でした。かつ，大学の法人化という新分野への関わりが私にはとても新鮮でした。会計士・弁理士・弁護士・大学教授……他分野のスペシャリストとプロジェクトに参加していくのも面白いなぁ，弁理士の業務としてこのような仕事もあるのだなぁと，希望が湧いてくるのを感じました。わくわくと意欲がわくと同時に，このようなプロジェクトに参加するためには弁理士としての知識，社会情勢についての認識，さらに知識に上乗せされたオリジナリティ溢れる意見を持っていること等が求められるなと，身が引き締まる思いがしました。行政改革・制度改革の進展に伴い，新分野への弁理士のますますの進出が予想されます。現在，その事態に備え私はまずは弁理士として一人前になれるように努めるとともに，さまざまな分野についての知識を身に付け，関心をもつことを忘れないようにしたいと思っています。

２．英語を使いこなして働きたい

私は学生時代に憧れていた人がいます。それは英語が堪能で，バリバリと仕事に励まれていた小和田雅子さんでした。雅子さんの様になりたい！と，恥ずかしながら思っていました。まずは，「資格をとろう」と考え，資格受験の勉強を始めました。しかし，英語の方はというと資格受験の勉強に追われ，勉強時間がなかなか取れませんでした。そこで受験生活が終わった今，念願であった英語の勉強を再開したいと思います。グローバル化が進んだ今の時代，英語が出来るということは大したことではないのかもしれません。現に多くの弁理士の先輩方は英語を使いこなされて仕事をなさっています。しかし，今現在，英語の出来ない私にとって，英語力の取得は大きな目標の一つです。できれば第二外国語の習得も出来たらと思っています。英語力をつけて，外国案件も難なく取り扱っていけたらと思っています。

３．女性としていきいきと生きていきたい

最後に，私は結婚して，出来たら子供を持ちたいと考えています。しかし，弁理士として働き始めた今，当面は自己研鑽に努める事でいっぱいいっぱいです。子供を持つなんておこがましい，そんな余裕あるのか！ と人に言われずとも，自分で自分に突っ込みを入れたくなる思いがあります。それでも子供の頃から漠然と抱いていた夢であり未来像である「お母さん」には絶対になりたいと思います。

色々と大変なことも多いと思いますが，諸先輩である「お母さん弁理士」の方々と交流の機会を持ち，色々とお話しをお聞かせていただき，何とかこの夢を叶えたいと願っています。

最後に　大変稚拙な文章になってしまいましたが，新人は初々しいなぁという温かい気持ちで（年齢的にはもう初々しいと呼ばれる時期は過ぎていますが)読んでいただけたら幸いです。少しでも自分の思う未来像に近づけるように精進してまいりたいと思います。